

Course number		U-LAS25 10001 SO48					
Course title (and course title in English)	イタリア語Ⅰ（文法・会話）I102,I103 Italian I (Grammar, Conversation)			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,KATAYAMA HIROSHI	
						Part-time Lecturer,NENCETTI Marco	
Group	Languages			Field(Classification)			
Language of instruction	Japanese and Italian			Old group	Group C	Number of credits	8
Number of weekly time blocks	2	Class style	Seminar (Foreign language) (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Year-round	
Days and periods	Fri.3・4/Fri.4・5		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>1年間で現代イタリア語の初級文法を習得することを目指し、前期・後期ともにテキストにそってイタリア語を学んでいく。また、外国語の使用によるコミュニケーション能力の向上や、豊饒なイタリアの文化に対する理解を深めることも本授業の目的である。</p> <p>授業は、イタリア人講師と日本人講師がペアを組んで進めていく。日本人講師のもとで学習した文法事項を、次のイタリア人講師との授業の中で繰り返し口頭練習することによって確認し定着させる。</p>							
[Course objectives]							
<p>イタリア語の基礎的な文法知識を習得し、平易な文章ならば辞書を用いて「正確に」読解できるようになる。またイタリアを旅行する際に困らない程度のコミュニケーション能力を身につける。</p>							
[Course schedule and contents)]							
前期							
以下の文法項目について、 1課題あたり1～2週、授業を行う予定である。							
文字と発音 名詞の性と数 冠詞（不定冠詞、定冠詞） 形容詞（品質形容詞、指示形容詞） 動詞 essere / avere 所有形容詞 規則動詞(-are, -ere, -ire動詞)の現在形 不規則動詞の現在形、補助動詞 疑問詞、前置詞の使い方							
後期							
以下の文法項目について、 1課題あたり2～3週、授業を行う予定である。							

Continue to イタリア語Ⅰ（文法・会話）I102,I103(2)							

イタリア語Ⅰ（文法・会話）I102,I103(2)

近過去（助動詞avere/essere, 過去分詞）
比較級（同等、優等、劣等比較）・最上級（相対最上級、絶対最上級）
再帰動詞・代名動詞
補語人称代名詞（直接補語、間接補語）
半過去
命令法

[Course requirements]

Refer to "Handbook of Liberal Arts and General Education Courses".

[Evaluation methods and policy]

評価の方法
前期、後期の最後に行う期末試験の成績に平常点評価を加味して評価を行う。
（二人の教員がそれぞれ評価したものをあとで合算する）

評価の割合（評価基準の詳しい割合については授業中に指示する）
筆記試験の成績：後期テストをより重視する
平常点評価：授業中の小テストの成績も平常点に加える

なお、出席状況が著しく悪い者は期末試験を受ける資格を失うものとする。

[Textbooks]

Instructed during class
初回の授業時に説明するので必ず出席すること。

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

毎回必ず30分から1時間程度の復習をすること。
また、動詞の活用などについて小テストも適宜実施するので、説明に従ってよく確認して臨むこと。

[Other information (office hours, etc.)]

授業時には大きな声での発音を求める。また積極的な質問を期待する。
イタリア文化に広く興味を持って授業に臨んでほしい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。